



平成 15 年 10 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社 フェローテック
代表者名 代表取締役社長 山村 章
(登録銘柄コード番号 6890)

平成 1 6 年 3 月 期 中間期及び通期の業績予想の修正について

平成 15 年 5 月 21 日に公表した平成 16 年 3 月 期(平成 15 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日)の
中間及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正

当中間期の業績予想数値の修正 (平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	7,000	20	△180	△500
今回修正予想 (B)	6,826	7	△265	△522
増減額 (B－A)	△174	△13	△85	△22
増減率 (%)	△2.5%	△65.0%	—	—
(ご参考) 前中間期実績	6,262	324	△87	△168

(金額の単位: 百万円)

当期の連結業績予想数値の修正 (平成 15 年 4 月 1 日 ～ 平成 16 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	16,000	690	400	10
今回修正予想 (B)	15,700	450	△230	△620
増減額 (B－A)	△300	△240	△630	△630
増減率 (%)	△1.9%	△35.0%	—	—
(ご参考) 前期実績	12,845	111	△626	△899

(金額の単位: 百万円)

2. 連結業績予想修正の理由

当中間期の連結売上高は、イラク情勢の不安が残る 1～3 月期の低迷および景気の底打ち時期である 4～6 月期での SARS の影響により、海外子会社を中心に部品調達の遅延や出荷延期などが発生し計画を若干下回る見込みです。利益面では、SARS による生産移管の一時停止等によるコストが増加し営業利益を圧迫しました。また、個別業績における中間期末の急激な円高による影響で為替差損が

発生し、これに伴い連結での経常利益および当期利益を修正するものです。

通期の見通しに関しましては、一部では景気回復の兆しがあるものの当社の属するエレクトロニクス産業では、製造装置受注の回復が遅れており、また円高による為替レートの見直しを行った結果、連結売上高の予想を修正いたします。

利益面では、売上高のプロダクトミックスの変化に伴い営業利益を修正し、9月下旬以降の急激な円高に伴う海外子会社保有の円建債務に対する為替評価損発生懸念が生じたため、経常利益ならびに当期利益をそれぞれ修正いたします。

3. 個別業績予想の修正

当中間期の業績予想数値の修正（平成15年4月1日～平成15年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	3,420	10	25	△60
今回修正予想（B）	3,270	12	△12	△96
増減額（B－A）	△150	2	△37	△36
増減率（％）	△4.4％	20.0％	—	—
（ご参考） 前中間期実績	2,714	52	27	△46

（金額の単位：百万円）

当期の個別業績予想数値の修正（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	7,640	45	230	55
今回修正予想（B）	7,550	40	190	7
増減額（B－A）	△90	△5	△40	△48
増減率（％）	△1.2％	△11.1％	△17.4％	△87.3％
（ご参考） 前期実績	5,225	△78	72	△75

（金額の単位：百万円）

4. 個別業績予想修正の理由

当中間期の個別売上高は、SARSの発生により中国子会社での生産移管の一時停止、商談延期並びに一部製品納期の遅延などが発生したため若干計画を下回る見込みです。

利益面では、販売管理費などの削減努力により営業利益は計画どおりの見込みです。

9月末の急激な円高の影響による為替差損の発生に加え、出資金評価損などが発生し経常利益および当期利益を修正するものです。

通期の見通しに関しましては、中間期に発生したSARSの影響から通期売上高を修正いたします。利益面でも中間期以降の円高の影響からそれぞれ通期予想を修正いたします。

なお、本業績予想修正の数値は連結・個別共に未監査であります。

以 上

問合せ先 総務部 若木
(TEL. 03-3281-8186)